

令和7年度 県立下妻第二高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道を目指して、知・徳・体のバランスの整った人材を育成する。国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる現代的な視野を育むと同時に、地域の核となる人間性豊かなたくましい人材を養成する。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①文武両道を目指し、知・徳・体のバランスが整った人材の育成 ②国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる人材の育成 ③地域の核となる人間性豊かな人材の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①生徒の学習意欲を高める教科指導法の研究と改善を図り、学力の向上を目指す。 ②大学進学を推進し、国公立大学20名以上合格と難関私立大学合格者増を図るため進路指導の充実を目指す。 ③県西地区の運動部・文化部の中心校として部活動の活性化を図り、各種大会での活躍を目指す。 ④道徳教育やシティズンシップ教育の充実によって、責任感を持った心豊かな人材を育成し、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ②地域から世界のことまで、広く興味・関心をもっている生徒 ③生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
平常課外や土曜課外を計画的に進め、進路に対する意欲向上につなげることができた。より高い目標を実現させるため、体系的かつ組織的な進路指導を行う。 キャリア教育は着実に歩を進めているが、その基盤となる、思考力・判断力・表現力の育成や知識・理解度を高める働きかけが不足している。主体的に学ぶ態度を育成するためにも、ICT の活用等の活用により、個に応じた指導とサポートを実践する。 基本的生活習慣の確立が見られ、多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。交通や情報モラルなどの規範意識の高揚を目指すきめ細かな指導を継続する。また、スクールカウンセラー等を活用し、支援を必要とする生徒への対応を充実させる。 学校行事や部活動に積極的に参加する生徒が多く、部活動においては運動部・文化部ともに高い実績を上げている。生徒の主体的活動を促進するための学校行事や部活動運営を行いつつ、保護者の期待と教職員の働き方に配慮した部活動の在り方を考える必要がある。		○授業改善と主体的学習態度の確立	①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践を推進し、ICT等も活用しながら個々の生徒に応じた指導法の改善とサポート体制の充実を図る。 ②授業第一主義の下、集中した授業を展開するとともに、自主性・主体性を大切にしたい学習習慣の定着を図ることで、進路実現に対応した思考力・判断力・表現力、知識・理解力を身に付けさせる。 ③授業満足度(KPI)について、生徒による授業評価(学校平均)3.4以上を目指す。	B
		○より高い進路希望の実現	④より高い目標を実現するため、課外授業や模擬テスト等の有効活用と充実を図り、最後まで自分の目標をあきらめさせない。 ⑤進路行事等の活用によりキャリア教育を充実し、生徒の資質・能力の向上を図り、社会に貢献できる人材育成のため、大学進学等を推進する。	B
		○個人指導(面談)の充実	⑥面談を通して、個々の生徒理解と保護者との共通理解を図る。	B
		○豊かでたくましい責任ある人間性の育成	⑦部活動加入を推進し、豊かな人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成、充実を図る。 ⑧基本的生活習慣及びマナーを身に付けさせるとともに、「総合的な探究の時間」やLHRにおいて、道徳や道徳プラスを通した心の教育や健康教育の充実を図る。 ⑨キャリアパスポートを活用し、学校行事や生徒会活動、「総合的な探究の時間」などを通して、生徒一人一人が主人公となって、協働的、主体的に活躍できる活動を充実させる。	B

宿泊を伴う国内語学研修を実施した。出発前の事前研修は、ALTと連携して効果的に実施できた。英語検定への意識も高くなりつつあり、英語検定1級1名、2級13名の合格者を出すことができた。国際理解のために、語学習得の重要性をさらに生徒たちに浸透させたい。 学校HPの充実・メディアへの情報提供により、保護者や地域住民の皆様への情報発信を充実させることができた。今後もJRCや生徒会、総合的な探究の時間の活用等を通して、家庭や地域との連携を密にする。 「働き方改革」への意識はあるものの、部活動・進路指導に熱心な教職員が多く、時間外在校時間の短縮に繋がらない。より時間を意識した働き方改革の実現を図ることが必要である。	○国際理解教育の推進	⑩海外語学研修等を推進し、自国・異国の文化と国際平和理解を深める。 ⑪海外生活体験者や外国人の活用、ALTの積極的活用を通して、国際理解を推進するとともに、積極的に英語を使う機会を設ける。	B
	○情報発信の充実と地域との連携	⑫ホームページや学校通信、メディアを通して、学校の取り組みや生徒の活動を地域社会や近隣中学校に広く発信し、学校理解を促し、地域や中学校との連携を深める。 ⑬ボランティア活動や「総合的な探究の時間」等を通して地域との交流を推進し、家庭・学校・地域が一体となって、生徒を支援し育成できる環境づくりを構築する。	B
	○効果的な教育活動の推進	⑭持続可能な学校教育を展開するために、勤務時間を意識した働き方改革を推進する。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策(○数字は関連する重点目標)		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	進路実現に向けた国語力の伸長	家庭学習の定着を図るための工夫をする。タブレット等を使っての学習に習熟させる。①②③		A	・新傾向入試、外部模試に対応した授業の時間が取ることが難しく、次年度は通常の授業とのバランスを再度考える。 ・図書紹介、読書指導に関しては、図書室との連携を図る。
			漢字、古文単語の小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。①②③		B	
			新傾向の入試や外部模試に対応した授業を行う。①②③④		B	
		授業の創意工夫	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の実践と個々の生徒に応じた指導法を工夫する。①②③④		B	
			ICT ツールを効果的に活用し、KPI 向上のための工夫をし、生徒による授業評価 3.4 以上を目指す。①②③④		B	
			授業の中で図書紹介をする等、読書指導を行い、本に親しませる。①②③		B	
			進路希望に応じた小論文指導を行う。④⑤⑨		A	
	地歴公民	基礎学力の向上	教科書の内容を理解し、基本的な知識を身につけさせる。①③		B	・基礎的な知識・技能の定着が未だ定着していない生徒に対して、支援方法を探る。 ・社会的な見方・考え方を醸成できるように、知識の定着だけではなく、体系的に概念を習得させる。 ・時事に着目し、授業と社会とを関連させた授業展開を意識する。
			小テストや記述演習などを実施し、知識の定着を図る。①④		B	
		受験対応能力の養成	授業や課外を通じて入試問題等演習を行い、その対応力を育成する。②④⑤		A	
			図表や資料の読み取りといった、近年の入試出題傾向に対応した授業の展開を行う。②④⑤		B	
		授業の創意工夫	グループワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒が主体となって学ぶ授業を展開する。①②③		A	
			時事問題と授業内容結び付け、社会への興味関心を高める。①②③		A	
			ICT を活用ながら KPI 向上のための工夫を行い、生徒による授業評価 3.5 以上を目指す。①②③		A	
	数学	基礎学力の向上	基礎基本の徹底を重視した授業展開を行う。①②		A	・基礎的な知識・技能の定着を徹底させ、その知識をもとに新たな問いを見だし、考える力を身に付けさせる。
			小テスト等を利用し、理解度の把握を行う。家庭学習量の増加を促す。②④		B	
		進路実現に向けた学力の育成	授業や課外を通して、発展問題に対する対応力を育成する。①②④		B	
			生徒の実態に応じた授業展開により、授業満足度(KPI)3.5以上を目指す。②		B	

教科	理科	基礎学力の向上	基礎基本の徹底を重視した授業展開を行い、授業満足度(KPI)3.4以上を目指す。①②	B	B	・ICTの有効利用と、進学指導、実験等実施等がバランスよくできるようにする。
			実験を多く取り入れ、授業の創意工夫に努めた授業を行う。①②	B		
		進路実現に向けた学力の育成	授業や課外を通して、発展問題に対する対応力を育成する。①②④	B		
			科学的思考力、表現力、判断力を養い、科学リテラシーを身に付けさせる。②④	B		
	保健体育	自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成	さまざまな健康課題に対して、適切な意志決定・行動選択ができるよう、知識の習得と健康的なライフスタイルを身につけさせる。②	B	B	・昨年度より若干の体力低下がみられるため、基礎体力を高める働きかけを行う。 ・指導と評価の一体化に向けた評価方法のさらなる検討と改善を行う。
			運動にふさわしい身だしなみを意識させて、授業に臨む態度の育成を促す。⑧	B		
		たくましく生きるための体力の向上	学習活動を通して主体的に運動に取り組み、体力テスト総合評価A及びB60%以上を維持し、D及びEの生徒を10%以下に減らすとともに授業満足度(KPI)3.4以上を目指す。②	B		
			技術レベルにあわせた簡易ゲームができるようにする。①②	B		
	芸術	創造的な表現力の育成	意欲的に工夫する能力、自己表現する能力を育成する。①②	A	B	・ICTを積極的に取り入れた授業を展開する。 ・「人間性」や「生きる力」を伸ばす指導の工夫に取り組む。
		鑑賞力の育成	主体的、能動的に芸術を鑑賞する態度を育成する。①②	B		
		授業の創意工夫	ICTを活用しKPIの向上を目標に効果的な授業展開を工夫し、生徒による授業評価3.5以上を目指す。①②③④	B		
	英語	基礎力の定着	英単語テストや文法語法テスト、各種課題等を通して、語彙力の増強や基礎力の定着を図る。②	A	B	・教員間における情報交換や教材研究の深化を通して、生徒の学習意欲を高める授業を行う。 ・生徒の理解度を把握し、習熟度に焦点を当てた授業展開に努める。
			生徒の学習意欲を高めさせ、家庭学習時間の確保と民間試験(英検)の受験促進に努め、英検2級合格者数15名以上を目指す。①	A		
		授業の創意工夫	教員間での情報交換を通して、教材研究を深め、わかりやすい授業の創意工夫に努める。①②③	B		
			新課程の「英語で行う授業」の実践に努める。①②⑩	B		
		ALTの活用	ICTを活用しKPIの向上を目標に効果的な授業展開を工夫し、生徒による授業評価3.4以上を目指す。①②③④	A		
	家庭	基礎的・基本的技術の習得	基礎的・基本的知識と技術を身につけるため、ICTを活用しながら、実践的・体験的な授業の充実を図る。①②	B	A	・年度初めでまだICTが使えない時期の指導の工夫をする。 ・ICTツールの更なる充実を図る。
		主体的学習態度の育成	自らの生活に関心を持ち、主体的に生活を営む力を養うための授業の工夫に努め、生徒からの授業評価3.5以上を目指す。①②③	A		
	情報	進路実現に向けた学力の育成	共通テストに向けて情報Ⅰの教科書を熟知させ、予想問題を解ける能力を養う。①②	B	B	・授業時間外で共通テスト対策をするための時間の確保に努める。 ・協同的な学びを取り入れた授業の実施をする。 ・年度始めに情報モラルの授業を実施し、SNS関係のトラブルをなくすことに努める。
		情報化社会に適応するための技術や情報モラルの育成	生徒の実態に応じた授業展開により、授業満足度(KPI)3.5以上を目指す。③	B		
		情報化社会に適応するための技術や情報モラルの育成	インターネットを含む社会問題の具体的な事例を学び、問題が起きた時の対処法や、犯罪に巻き込まれないための知識を身に付けさせる。①②	B		
		PCスキルの向上	PCスキルの向上のため、タイピングの反復練習を行い、Wordの修飾機能やExcelの関数などを習得させる。①②	A		

教 務	学力向上のための支援	学年・教科との連携を図り、学校行事を適切に計画実施するように努める。②④⑨	B	B	・教務業務のデジタル化を進めることが出来た。また、部会資料や定期考査範囲表のペーパーレス化を進めることができた。次年度も業務効率化を図る。 ・生徒の実態に合わせた教育課程の編成を継続して議論していく。 ・学校説明会、学校公開への関心の高さに応えられる企画・運営に取り組む。
		定期考査の円滑な実施を図り、授業の充実や適正な評価に結びつくように努める。①②⑤	B		
		観点別評価について、適正な評価になるよう各教科と連携していく。①②⑤	B		
		ICT の活用等、授業の充実・改善に向けて研修の機会を設け、教員の共通理解を図る。①②	A		
	教育課程の研究	新学習指導要領、高大接続改革などを勘案し、教育課程を編成する。②④	B		
		生徒の多様な進路実現に向けて、指導計画の確立を目指す。①②④	B		
		総合的な探究の時間や道徳の運営が適切に行われるよう努める。④⑧	B		
	地域・中学校などへの広報活動の充実	分かりやすい学校案内の作成に努める。⑫	A	B	・情報セキュリティ対策の向上を図る。 ・ICT のさらなる活用を目指す。 ・視聴覚室の機器整備を行う。
		学校の特徴が表現できるような学校説明会や学校公開の実施方法の改善に努める。⑫⑬	B		
		学校ホームページを積極的に活用していく。⑫⑬	B		
	校内ネットワークの管理	校務用端末及びサーバの維持管理に努める。	A		
		無線LANを有効活用し、教育用および生徒用端末を有効利用できるように整備する。①②	B		
		リモート会議等、円滑にオンライン活用ができるよう、校内研修および機器整備に努める。	B		
		校内ファイルサーバの活用とファイル保全を図る。	A		
	情報セキュリティ対策	ウィルス感染防止を常に心がけ、教職員および生徒向けにセキュリティやICT活用に関する内容を随時伝達する。①	A		
	学校ホームページの運用	学校ホームページを計画的に運用し、内容をより充実させ、広報活動に努める。⑫	B		
		緊急メール配信が遅滞なく活用できるように支援する。⑫	B		
	視聴覚教育の充実	教育情報委員会の活動を活発化させ、視聴覚教育が効果的に実施されるよう環境を整備する。①②⑫	B		
	情報処理の円滑化	成績処理諸帳簿などの処理において、関係する部との連携を図る。	B		
		「校務支援システム」でのデータ処理管理が円滑に行えるように、関係する部との連携を図る。	B		
生徒支援	基本的生活習慣の確立	登校指導やさわやかマナーアップキャンペーンを通して、挨拶の奨励、時間の厳守、服装容儀の遵守を図る。	B	B	・教員間の迅速な情報共有、共通理解に基づく指導体制の確立を図る。
	交通安全の徹底	生命の安全教育を通して、生命の尊さを学び、自他を尊重する態度の向上を図る。	B		
進路指導	望ましい進路選択の支援 進路実現のための支援 進路実績の伸長	各学年の適切な時期に、進路講演会や大学見学会、模擬授業等を実施することで、進路に対する意識付けを促す。	B	B	・学年により進路実績に差が生じている現状の改善を図る。 ・受験報告書や求人票等、進路に係る情報のデジタル化を進める。
		オープンキャンパスや公開講座、会社見学等の情報を提供し、ラーケーション等を活用した積極的な参加・受講を勧める。	B		
		進路の手引きや進路通信を発行し、進路や学習に関する意識を高める発信を行う。	B		
		進学や就職に関する資料や情報を精選し、適切かつタイムリーな進路情報の提供を行う。	B		
		模試結果や入試情報の速やかな提供・共有化を図り、学年や教科の学習・進路指導の改善に寄与するように努める。	B		

特別活動	学校行事を通した、自主性・協調性の涵養	生徒会や委員会が主体となり、全生徒が生き生きと活動する行事の企画運営をする。⑦⑧⑨	B	B	・生徒会主体の、生徒のさらなる自発的活動のしくみの整備に努める。 ・生徒規約の周知、それに基づく生徒会活動の実践に努める。 ・文化祭の適正な会計処理を行う。 ・教員間の情報共有、連携を図る。
		クラスマッチや文化祭などの行事で生徒の係分担などを明確にして、責任感を持たせるとともに全員が協力する意識を高揚させる。⑧⑨⑬	A		
	部活動の充実	生徒の自発的活動を支援する体制を整備する。⑥⑦⑧	A		
	心の教育の充実	文化部の活動を充実させ、活動内容の発信をする。⑦⑧⑪	B		
		生徒会が中心となり部活動やHRをリードし、ボランティア活動や募金活動などに取り組めるようにする。⑦⑧	B		
		計画的な HR 活動の展開及び⑦⑧	B		
キャリア教育の充実	キャリアパスポート等の活用によりキャリア発達を促進する。⑧⑨	B			
保健厚生	健康の保持増進に努める態度の育成	保健だよりや保健指導を通して、健康の保持増進に関する情報提供を積極的に行う。⑧	B	B	・スクールカウンセラーと教職員との連携により、生徒への支援を充実させる。 ・他分掌との協力関係の構築を完成させる。 ・関係する行事の速やかな立案と周知を行う。
		心身の健康に問題のある生徒には、個別相談活動を積極的に行う。⑥	B		
		性に関する講演会を実施する。⑧	B		
	教育相談の充実	生徒が利用しやすい相談室になるよう整備する。⑥	B		
		相談活動が計画的に実施できるよう努める。⑥	B		
	清潔な教育環境確保と安全の確保	生徒会や環境美化委員会と連携をとり、校舎内外の清掃美化活動を定期的に実施する。⑧⑨⑬	B		
		防災避難訓練を通して、防火防災の意識を高揚させる。⑨	B		
		生徒の救命講習会を実施する。⑨	B		
図書	図書館利用を活性化させる	購入希望調査やリクエスト等により生徒の興味関心に沿った図書の購入に努めると共に、主体的で深い学びにつながる環境を整える。①⑧	B	B	・季節行事や各種イベントを企画し、図書委員会活動の活性化を図る。 ・読書感想画、POPコンテストの他、研修会へも積極的に参加する。 ・今後も、生徒の主体的な学びにつながる環境を整える必要がある。
		図書委員を活動させ、推薦図書の紹介や図書館内のレイアウトを工夫する。⑨	A		
		図書館内の美化やマナー向上を図り、利用しやすい環境をつくる。⑧	B		
	読書の推進を図る	校内読書週間(年3回)を設けて、生徒の読書意識を高める。⑧⑨	A		
		図書だより(新着図書案内込み)、図書館報(年1回)を発行する。⑨	A		
渉外	PTA行事への保護者の参加率向上	PTA総会実施する。	A	B	・駐車場を考えて、参加とオンラインのハイブリット型の検討を進める。 ・HP掲載の広報を保護者に浸透させる。
		PTA役員及び評議員会の円滑な運営並びに研修活動の推進をする。	B		
		学校行事等においては、保護者の参加要望が高まる内容のものを検討する。⑫	B		
	広報活動を通じ、保護者の学校理解を深める	HP等を活用し、学校及び生徒の活動、成果をわかりやすく保護者に伝える工夫をする。⑫⑬	A		
		地域との連携を密にし、PTAと生徒が協働する活動を促進する。⑫⑬	B		

第	豊かな人間性の育成と	部活動への参加を促し、良好な人間関係を築く能力や、コミュニケーション能力の育成、充実を図る。⑦	B	B	・学習習慣の定着の工夫をする。 ・習熟度の差が大きい生徒に対する授業内の工夫をする。 ・模試前後の指導を徹底する。 ・提出物を期限内に出させる指導を徹底する。 ・化粧・髪型などの規範遵守の意識を高める。
	基本的生活習慣の確立	LHRや総合的な探究の時間等を通して心の教育に関わり、自発的な規範意識を高める。学校行事等で活躍できる場を充実させる。⑦⑧	A		
	基礎学力の定着	挨拶の励行、規範意識の向上、正しい身だしなみの三点を重点的に指導する。⑧	B		
		授業を大切に、家庭学習の習慣を身に付け、提出物を確実に提出するなど学習習慣の定着を図る。②	B		
	進路意識の向上	進学を意識した授業を展開し、基礎学力の定着と問題解決能力の向上を図る。①③	A		
		LHRや進路行事を通して適切な進路情報の提示をし、目標の設定や早期の進路希望決定を促す。④	B		
第	基本的生活習慣の確立	挨拶の徹底、時間の厳守、身だしなみの三点を継続的に指導する。⑧	B	B	・進路決定のための情報提供やガイダンス実施の際の工夫を図る。 ・期限を守るための意識づけを図る。 ・家庭学習習慣の定着を図り、学力向上へとつなげる。
		欠席、遅刻、早退が多い生徒への早期対応を実施する。⑦	A		
		授業・LHR・総合的な探究の時間等を通して心の教育に係わり、振り返りをさせることにより、生徒の主体性を高める。①⑧	A		
	学力の向上	Classi を活用し、家庭での予習・復習を習慣化させ、学習習慣の定着を図る。②	B		
		定期考査・課題テスト・小テスト・模擬試験等に対して主体的・継続的な学習の実践を促進し、学力の向上を図る。②③	B		
	進路意識の向上	LHR・進路行事を通して、継続的に進路情報の提示を行い、早期の進路希望決定・自己目標の設定を促す。②③④	B		
		オープンキャンパスや進路説明会等への積極的な参加を促し、進路実現に対する意識を高める。④⑤	B		
第	基本的生活習慣の確立	挨拶の奨励、時間の厳守、身だしなみの三点を継続的に指導する。⑧	B	B	・学力向上のための長期的な見通しを持った取り組みをする。 ・「総合的な探究の時間」や LHR での統一感をもたせる。 ・生徒の実情、時代の進展などを踏まえた身だしなみの指導に努める。
		進路実現に向けて規律ある生活と努力を続ける姿勢を保てるように支援する。⑧	B		
	規範意識の向上	最高学年としての自覚を高め、責任ある態度や公共心・協調性の育成に努める。⑧	B		
	進路希望に向けた学力の向上と実現	進路に対して高い目標を掲げ、授業を大切に、課外活動や模擬試験等への主体的・積極的な取り組みを促す。また、家庭学習時間の増加を図る。②④	B		
		放課後や長期休業中の課外を行い、さらに学力の伸長に努める。④	B		
		定期考査、小テスト等で基礎学力を育成するとともに、授業で演習・外部模試等を積極的に活用し、受験に対応した学力を身につけられるように支援する。②④	B		

※評価基準 A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:努力を要する